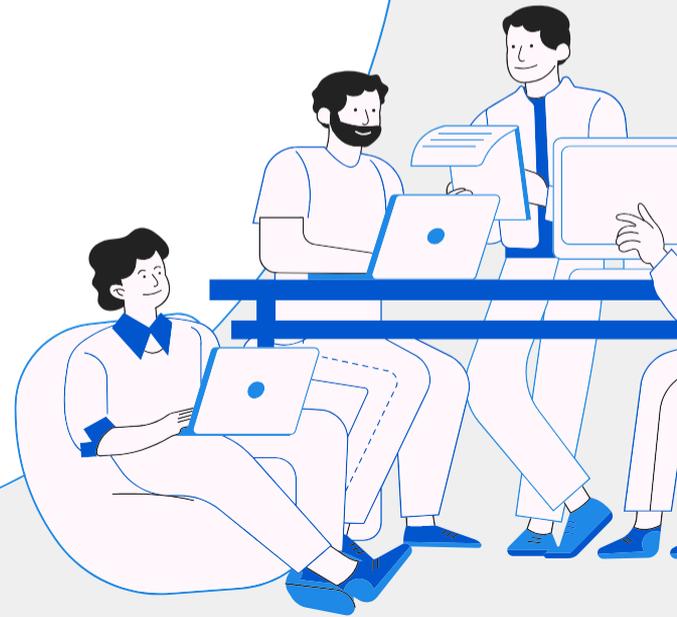
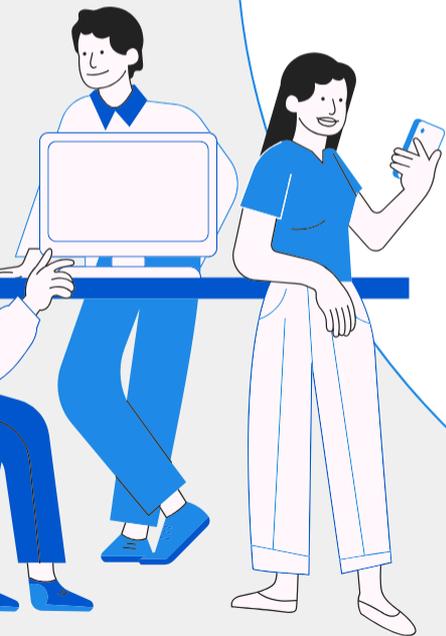


コストを抑えるポイント

システム開発の費用相場を知る！ 成功する予算設定法

見積もりの注意点



こんな悩みありませんか？



予算の立て方がわからない

システム開発にどれくらいの予算が必要か見当がつかず、適切な予算計画を立てられない



見積もりの妥当性が判断できない

開発会社から提示された見積もり金額が適正なのか判断する基準がない



追加コストが発生して困る

開発途中で想定外の追加費用が発生し、予算オーバーになってしまう



コスト削減の方法がわからない

限られた予算内でシステム開発を行うための効果的なコスト削減方法がわからない

目次

1 費用相場を知る重要性

2 費用変動の3大要因

3 規模別の費用相場

4 国内開発 vs 海外開発

5 見積もり時の3つのポイント

6 予算設定の成功法則

7 費用削減のアプローチ

8 成功への3つのポイント

費用相場を知る重要性



適正価格の判断基準になる

費用相場を知ることで、開発会社から提示された見積もり金額が妥当かどうか判断できるようになります。



予算計画の精度が向上する

相場感があれば、予算内で実現可能な機能の範囲が明確になり、現実的な計画を立てられます。



業者選定の基準として活用できる

複数の開発会社を比較する際に、費用対効果の高い業者を選びやすくなります。



費用変動の3大要因



開発規模

システムの規模が大きくなるほど、設計から実装、テストまでの工程が増え、必要なリソースも増加。ユーザー数やデータ量が多いシステムでは、高負荷に耐える設計が必要となり、コストが増加します。



仕様の複雑さ

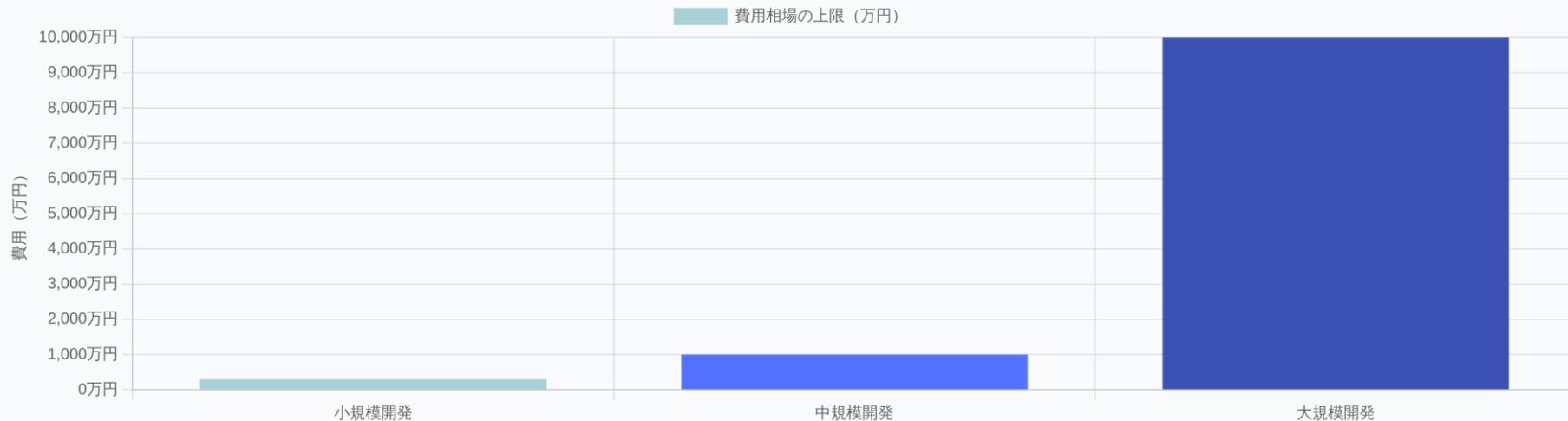
標準的な機能だけのシンプルなシステムなら費用は抑えられますが、カスタマイズ性の高い仕様や高度な技術を必要とする機能を追加すると、開発時間や技術力が必要となり、費用が上昇します。



開発環境

使用するプラットフォームやプログラミング言語、開発ツールなどの違いも費用に影響します。特定のプラットフォーム向けの開発や専門的な言語を使う場合、それに精通した人材が必要になるため費用が上がります。

規模別の費用相場



📱 小規模開発

50万円～300万円

シンプルなWebアプリや小規模な業務システム。機能が限定的で複雑なカスタマイズが不要な場合。

📂 中規模開発

300万円～1000万円

ユーザー管理や外部連携機能を備えたWebシステム、スマートフォンアプリなど。

🏢 大規模開発

1000万円～数億円

企業全体の業務を統合するERP、カスタマイズされたクラウドソリューションなど。

国内開発 vs 海外開発

国内開発

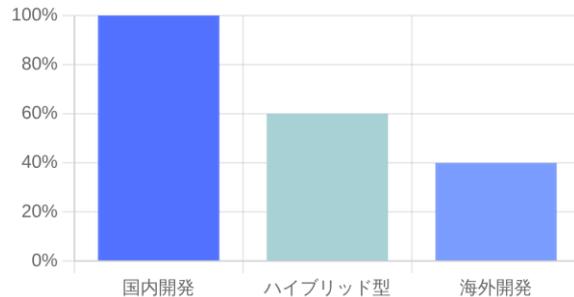
- ¥ 費用：高め（数百万円～数千万円）
- ✓ 品質：高品質・丁寧な開発
- 💬 コミュニケーション：スムーズ（言語・文化の壁が少ない）
- 🛠️ サポート：充実（長期的なサポート体制）

海外開発（オフショア）

- ¥ 費用：安め（国内の半分以下も可能）
- ! 品質：業者によりばらつきあり
- 🗣️ コミュニケーション：言語・文化の壁が課題
- 🕒 納期：遅延リスクあり

ハイブリッド型（国内外併用）の選択肢

重要な工程（要件定義・設計・プロジェクト管理）は国内で行い、コーディングやテストなど工数が多い作業を海外に委託するハイブリッド型の開発モデルは、コスト効率と品質のバランスを取りやすい選択肢です。国内チームがブリッジSEとなり、海外チームとの調整役を担うことで、リスクを最小限に抑えつつコスト削減が可能になります。



見積もり時の3つのポイント



機能要件の明確化

必須機能と追加機能を区別し、優先順位を設定する。明確な要件定義書を作成することで、正確な見積もりを得られる。



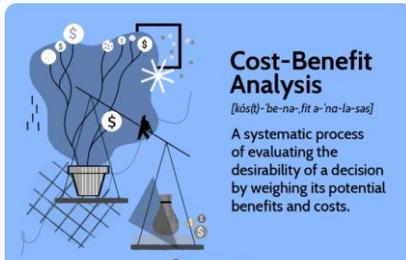
スケジュールと開発規模の考慮

納期が短いほど費用は高くなる傾向がある。開発規模に応じた適切な人員配置と時間配分を検討する。



開発費用以外のコストを考慮

運用・保守費用、システム更新費用、トレーニング費用など、開発後に発生するコストも予算に含める。



予算設定の成功法則

柔軟な予算枠の設定

基本開発費用に加えて10~20%の予備費を予算枠として確保しておくことで、要件変更や追加作業が発生した場合でもスムーズに対応できます。

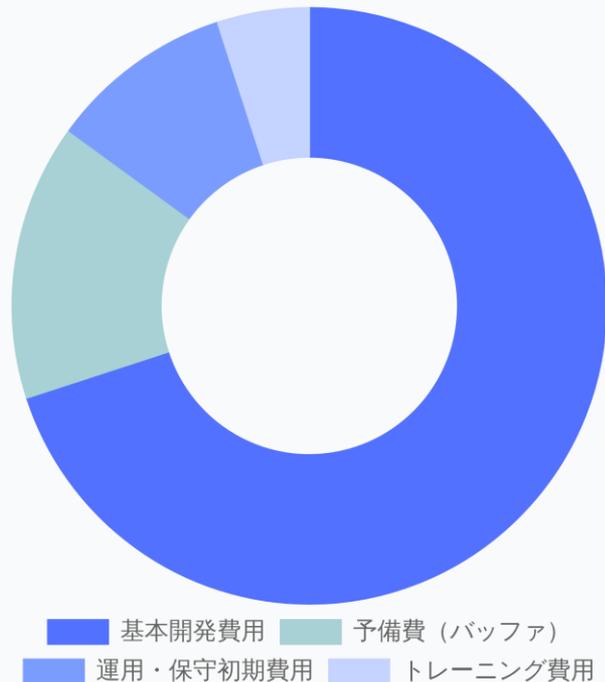
複数見積もりの比較

複数の業者から見積もりを取り、提案内容の透明性とコストと成果のバランスを評価します。単に安いだけでなく、信頼性や品質も含めた総合的な判断が重要です。

長期的な費用対効果の考慮

目先の安さだけでなく、運用・保守コストや将来の拡張性も含めた長期的な投資対効果（ROI）を考慮します。短期的な節約と長期的な効率のバランスを取ることが重要です。

理想的な予算配分の例



費用削減のアプローチ



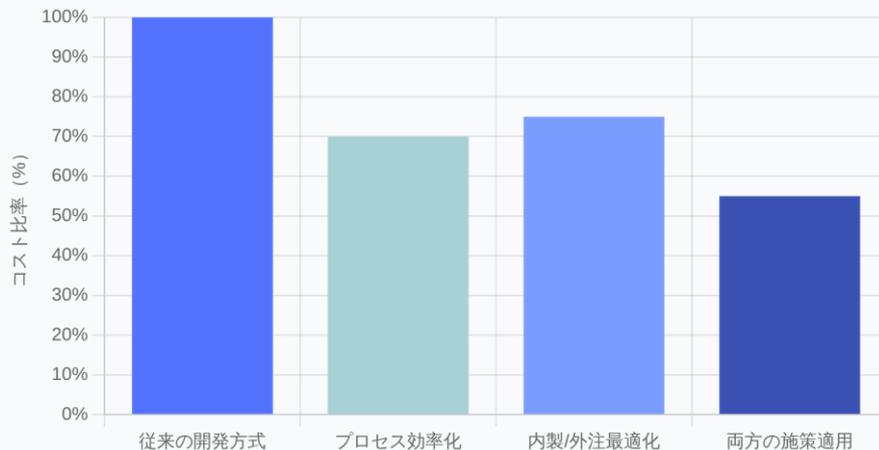
開発プロセスの効率化

- ✓ アジャイル開発の活用：小さな単位で開発とテストを繰り返し、無駄な作業を削減
- ✓ テンプレートや既存ソリューションの利用：一般的な機能は既成の部品を活用
- ✓ クラウドサービスやオープンソースの活用：開発期間とコストを節約



内製と外注のバランス最適化

- ✓ 重要度の高い機能や自社独自のノウハウが詰まった部分は内製化
- ✓ コストや工数がかかる単純作業や大量の開発作業は外注
- ✓ 専門性の高いタスクは経験豊富な外部のプロフェッショナルに任せる



Cost Analysis Type	Focus	Application
Marginal Cost Analysis	Additional cost per unit produced	Manufacturing, production optimisation
Incremental Cost Analysis	Cost difference between alternatives	Decision-making, alternative evaluation
Life Cycle Cost Analysis	Total cost throughout the life cycle	Construction, projects with extended timelines
Activity-Based Costing (ABC)	Allocates costs based on activities	Industries with diverse products/services
Opportunity Cost Analysis	Potential benefits foregone	Decision-making with trade-offs
Cost-Benefit Analysis (CBA)	Compares costs with expected benefits	Investment decisions, project feasibility

www.holisticttraining.com

まとめ：成功への3つのポイント



費用相場の理解

システム開発の費用相場を把握することで、適正な予算設定や見積もり評価の基準が得られます。規模や複雑さに応じた相場感を養いましょう。



適切な予算設定

10～20%の予備費を含む柔軟な予算枠を設定し、複数の見積もりを比較検討することで、コストと品質のバランスが取れた選択ができます。



長期的な費用対効果

初期費用だけでなく、運用・保守コストも含めた総コストを考慮し、長期的な投資対効果（ROI）を重視した判断を心がけましょう。

株式会社ソフィエイト

Sophiate Inc.



〒160-0002 東京都新宿区四谷坂町1番12号



代表取締役：川島碩介



contact@sophiate.co.jp



<https://sophiate.co.jp/>

ご相談・お見積りは無料です。お気軽にご連絡ください。

※数値・固有名詞はダミーです。要確認